

平成20年7月28日

子ども議会 所信表明

越前市長 奈良俊幸

議員の皆さん、こんにちは。子ども議会の開会にあたり、まず最初に、市長としての私の問題意識をお話します。

日本中の市や町で今、もっとも大きな悩みは、人口がだんだん少なくなる時代を迎えるとともに、国からもらえるお金や税金が年々減っていることで、大変厳しい状況に地方は置かれています。したがって、人とお金が減る中で、どのように元気な越前市を築いていくかという問題に苦労をしているのです。全国的な少子化傾向の中、越前市においても現在 約8万7千人の人口が、10年後には約3000人も減少する見通しとなっています。

このような状況を踏まえ、越前市では、これから10年間のまちづくりの基本となる「越前市総合計画」を昨年春に作りました。総合計画は、国に頼ることなく、越前市の責任と判断で行動していく「自立」と、市民の皆さんと一緒に力を合わせてまちづくりを進めていく「協働」を基本的な考え方とし、「元気な自立都市 越前」を目指すこととしています。

人口の減少と限られた予算という課題を乗り越え、越前市がさらに発展していくために、「総合計画」では5つのまちづくりの柱を掲げ、越前市に住む人たちの生活に直接、結びつく事業を中心に、計画的・効果的にお金をかけることで、活力あるまちづくりを進めているのです。

まず、一つ目の柱の「元気な産業づくり」では、工業や商業を発展させるために、市内の会社やお店の活動を応援しています。その結果、平成18年に越前市で造られた機械や品物の合計額は福井県で一番多くなり、平成19年度には市内の会社から納めていただいた税金の額が過去最高になりました。

また、観光にも力を入れ、多くの人々が越前市を訪れるための工夫をしています。特に今年は、若い頃に越前市に住んでいた紫式部が書いた源氏物語が、記録の上で確認されてちょうど千年目となることから、これを記念していろいろな行事を行っ

ています。秋に開かれる「たけふ菊人形」も、今年は「源氏物語」をテーマに行うこととしています。

二つ目の柱の「元気な人づくり」は、皆さんに大きな関係がある分野です。

21世紀を支える元気な人を育てるために、去年は小学校において、パソコンを新しくしたり、授業をわかりやすくするためのプロジェクターなどをそろえました。今年は、中学校のパソコンを新しくします。

また、北新庄小学校の新校舎が完成し、南中山小学校の校舎も12月の完成に向けて工事を進めています。

併せて、校舎や体育館などが大きな地震にも耐えられるように、これから10年間で約85億円のお金をかけて、学校を新しくしたり、地震に強くしたりする工事を進めています。

今日の子ども議会も、「元気な人づくり」の取組みの一つです。

「元気な人づくり」では、健康づくりも大切です。病気にかからないように、また早く病気を見つけられるように、越前市では、病院で検査をしてもらうお金を無料にしたり、安くするなど、福井県で最も充実した内容で健康づくりに力を入れています。

三つ目の柱の「快適で住みよいまちづくり」では、中心市街地の寺町やタンス町、今立の五箇地区など昔の町並みが残っている地域で、古いものを大事にしながらまちづくりを進めています。道路や河川、公園なども整備しています。

自然を大切にする環境問題への取組みも重要です。今年の10月には、坂口地区や白山地区のすばらしい自然を守る取組みを多くの人に見てもらい、情報交換を行うための全国的な会議を開きます。

また、地球温暖化が深刻な問題となっているので、各家庭から出る二酸化炭素を減らす取組みも進めています。現在、各学校で取り組んでいる「学校版環境ISO」も大事な活動で、環境に関する勉強や環境を守るための活動を通して、環境への意識を高めてほしいと思います。

四つ目の柱の「安全で安心なまちづくり」では、地震や水害などの自然災害に対する備えとして、災害や避難の情報を速く正確に伝えるための仕組みの整備、洪水が発生した時に予測される被害の程度や避難経路、避難場所を記した地図作り、災害に備えるための防災訓練などを行っています。

また、児童の皆さんが安全に登下校できるように、地域の人たちが見守っていただいているのですが、この活動に対する応援も行っています。

五つ目の柱の「市民が主役のまちづくり」では、17の小学校区ごとに、地域の人たちが自分たちで身近な問題を解決し、地域のよさを生かしたまちづくりを行う取組みとして、自治振興会や町内会の活動をされていますので、この取組みに対する応援を行っています。

以上が、越前市を元気で活力のあるまちにするための、現在の主な取組みです。

次に、私たちと税金の関係についてお話しします。

皆さんは毎日、学校に通っていますが、学校には校舎や体育館が整備され、勉強の道具などが備えられています。勉強は先生が教えてくださいますし、おいしい給食も食べることができます。

皆さんがお世話になっている、こうした一つ一つの取組みにはすべて、皆さんのお父さんやお母さんが納めていただいた税金が使われているのです。毎日通っている道路や皆さんが遊んでいる公園なども税金で造られています。

つまり、私たちの日常生活は税金によって成り立っている、と言っても言い過ぎではありません。

一方、税金は市民や会社が苦勞して稼いだお給料や利益の中から納められたもので、金額には限りがあります。したがって、市民の皆さんからやってほしいことがたくさんあると要望をいただいても、限られた税金ですから、市長としては本当に必要なことから順に、大切な税金を使っていかなければなりません。

しかし、その順番を決めることはなかなか難しい問題です。

例を挙げてみます。もし、今日の子ども議会で提案してくれる17小学校の皆さんの夢や希望をかなえるために、必要なお金を合わせたら10億円になったとします。しかし、使える税金は3億円しかありませんでした。皆さんなら、どのようにしますか。考え方はいろいろあると思います。

たとえば、全部の学校の希望はかなえられないので、一部の学校だけの希望をかなえるという方法があります。かなえてもらえる学校の選び方は、くじ引きで決める、金額の少ない学校から順に選ぶ、だれかに決めてもらうなど、いろいろと考えられると思います。しかし、この方法では、希望がかなえられなかった学校の人たちが我慢しなければなりません。

そこで、17小学校の夢や希望の一部分だけをかなえるという方法もあります。この方法は、全部の学校の提案にお金がいきわたりますが、中途半端にしか希望がかなえられず、全員が少しずつ我慢しなければなりません。

この例のように、限られた税金の使い方を決める場合は、十分に話し合いをするしか解決策はありません。その上で、みんなが納得できれば、提案は実行できるのです。

市では、このような話し合いを市議会で行います。議員の意見や提案に対して、市長が考え方や問題点を答えていくというやり取りを議会で積み重ね、みんなが納得できる方法を見つけ、税金の使われ方を決めているのです。

ところで、税金は大人の方が納めています。もちろん、皆さんのお父さんやお母さんも納めています。つまり、皆さんは目に見えないところでも、お父さんやお母さんなど家族や地域の人にお世話になっているのです。

今日の子ども議会を通して、議会の仕組みや税金のありがたみについて理解するとともに、毎日の生活が多くの人に支えられていることをわかってもらい、家族や地域の人に対する感謝の気持ちを忘れないでほしいと、私は願っています。

最後になりますが、私は、これからも市民の皆さんが越前市に住んでいることを誇りに思い、誰もが「越前市に住みたい」「越前市に住み続けたい」と思う、安全で元気な越前市づくりを進めるために、一生懸命に頑張ります。

皆さんも一緒に、「ふるさと越前市」のまちづくりを応援してください。